



国交省九州地整職員へ出前授業を実施 (in：九州技術事務所研修所)

建設産業専門団体九州地区連合会

令和5年12月12日（火）

R4.7.21 九州地方整備局長との意見交換会
 藤巻局長：どうも専門工事業の特有の課題がわかっていない

「専門工事業の仕事は知らない」を無くす

専門工事業講習会 時間割

受講生28名(男性26名、女性2名)

令和5年12月12日(火)
 場所:九州技術事務所

時間	13:00	14:00	15:00	16:00
月日				
12月12日 (火)	05 ガイダンス	25 建設業の現状と課題 (専門工事業について) 《講義》 (20分) 建政部 課長補佐	05 15 専門工事業の現状と課題 《講義》 (40分) (一社)日本型砕工 事業協会 九州支部 宮城泰治 様	15 20 50 移動 意見交換 着替え 解散
			05 15 専門工事業の職種体験 (解体、鳶、型枠、鉄筋予定) ※4班×30分で順次体験 (120分) 九州建専連	

○型枠の同業者同士で合併して、事業継続進めた

○講義：建設専門工事業の現状と課題

○講師：株式会社イワイ工業 会長宮城泰治
(日本型枠工事業協会九州支部)



受講生の声

・革新的な経営者が現場の肌感覚で現状の問題点と今後の改善を語られた。

自己紹介

- ・嫁さんの実家が型枠工事業で、地域では経営改善に取り組む先駆的な存在（先進的にCAD導入、釘抜き機特得）
- ・38歳の時に保険会社から後継者として入る、現場経験なし

型枠の資質等

- ・図面から施工建込作業を3次元で想定できる能力
- ・重量に耐えられる組立、完成後には数ミリ内の誤差で納める技術
- ・重量に耐えられる支保工計画計算の数学力
- ・一人前に施工段取りができるまで、最低5～6年かかる技能職

型枠業の現状と合併の経緯

- ・国交省が示している建設技能者数のデータよりも型枠業は大幅に減っていて、特に建築大工はひどい状態ではないか。
- ・弊社がH2000年115人、2023年56人、合併により80人に。
- ・零細化対策、職人減少対策と後継者確保のため、専門工業では前例のない「合併」を実施。

社会的責任をどう果たすか

- ・ゼネコンは社会保険料もCCUSの課題も下請けの問題として捉えている。
- ・現場で働く人がいないと業界が成り立たないということをもっと業界全体で取り組んでいくべきではないか。
- ・現場は人がいないため重層下請け状態。現場を一つの有機的な事業所として、空いているときには職種間を超えて自由に労働力の移動を行い、協力できる体制となるような構造的な見直しが必要ではないか。働く人の所得増、生産性の向上に繋がる。

○専門工事業の職種体験

- ・ 4 班体制
- ・ 30 分単位

とび・土工事業
協力企業 (株)スギヤマ
中村工業(株)



型枠大工工事業
協力企業 (株)伊佐工務店



鉄筋工事業

協力企業 (福岡県鉄筋事業協同組合)



解体工事業

協力企業 (福岡県解体工事業協会)



指導者と意見交換を行いました



- Q 担い手確保の状況と定着状況
- ・ 求人活動は精一杯やっているものの外国人労働者に頼らざる得ないのが現状。
 - ・ 定着促進には家族帯同ができるよう、1級技能士の資格取得を目指して、技能と日本語を教える。
 - ・ 先生方と話をして、衣食住を充実。他産業と同じ土俵に上がって賃金のアップと週休二日制を実施したところ入職者の確保ができた。

Q 元請や発注者に対する改善要望

- ・ いざ現場に入ってみると着工ができない状態が頻繁にあり、2か月遅れはざら。その間人も入れ替えることもできない。
- ・ 工期の設定についてはしっかりとコミュニケーションを取らないと急ぐあまりに事故にもつながる。
- ・ 週休二日制は一次はできても二次、三次となると日給月給制のため民間工事では動いているところに流れていくのが現状。
- ・ 求人を行う上でも足並みを揃えていく環境が必要。
- ・ 内部解体に伴う石綿撤去の考え方が発注者によって違いがあり、統一した指導をお願いしたい。
- ・ 事故がないところは元請がコミュニケーションを大事にしている。
- ・ CCUSを知らないゼネコン、協力会社に対する登録促進をお願いしたい。

よい経験となりました！



体験後の声

- ・ 現場作業員の技術力の高さを感じた。
- ・ 作業の大変さ、普段見慣れている作業でも危険な場面が潜んでいることを実感できた。
- ・ 意見交換は特に参考になった。
- ・ 今後の業務に生かしていきたい。